

古川なおき 第136号 レポート



自由民主党横浜市議員 古川なおきの政務活動報告

2016年7月14日発行

“観光都市”としての横浜

3年に一度の参議院選挙も終わりました。当選した議員には、奢ることなく日本のために地道にがんばってほしいと思います。

さて、今年の夏休みのご予定は決まりましたでしょうか。旅行に出かける方も多いと思いますが、昨年度の横浜市の観光集客実員数は3761万人で過去最高となりました。観光消費額は3188億円で、横浜市の中長期計画にある平成29年度までの達成目標2475億円を既に超えています。横浜に住んでいると実感がないかもしれませんが、国内外から一度横浜に行ってみたいと思っている人が増えていることは嬉しい限りです。

区分	観光集客実員数		増減	増減率
	27年	26年		
宿泊	512万人	489万人	23万人	4.7%
日帰り	3,249万人	2,963万人	286万人	9.7%
合計	3,761万人	3,452万人	309万人	9.0%

区分	観光消費額		増減	増減率
	27年	26年		
宿泊	1,426億円	1,324億円	102億円	7.7%
日帰り	1,762億円	1,447億円	315億円	21.8%
合計	3,188億円	2,771億円	417億円	15.0%

一方、訪日外国人観光客の中で、横浜市内に宿泊した方は延べ72万人。国別では中国、アメリカ、台湾からの観光客が多く、タイやインドネシア、香港、マレーシアからも増えています。これは国の戦略的なビザ緩和や免税制度の充実などの効果が表れていると思いますが、日本全体の外国人延べ宿泊者数は6561万人なので、もっと横浜に泊まっていたらよい努力できると思います（延べ宿泊者数とは、1人が2泊すれば2人と数えます）。

また、政府は2015年に1974万人だった訪日外国人観光客を2020年までに4000万人、2030年には6000万人にする計画なので、横浜市としても海外からの集客を意識した観光政策にもっと力を入れていくべきだと思います。

国連世界観光機関(UNWTO)は、2014年に約11億人だった国際観光客は、2030年までに18億人に増えると予想しています。「新・観光立国論」や「国宝消滅」のイギリス人著者デービッド・アトキンソンは、世界のGDPの約9%が観光産業であるにもかかわらず、日本のGDPに観光産業が占める割合は約4%で、日本がもっている自然、気候、歴史・文化、食をもっと観光に活かせば、日本の観光産業は50兆円以上の産業に成長する可能性があるという指摘をしています。

横浜市がもっている魅力は、異国情緒あふれる開港以来の開放的な歴史や風土であり、国際会議やスポーツ、文化芸術のイベントやコンサート等も多く開催されています。来年3月には地元旭区ズーラシアでも花と緑の祭典「全国都市緑化よこはまフェア」が開催されます。その後、2019年にラグビーワールドカップ決勝戦、2020年のオリンピックではサッカーの開催が決定しています。さらに、野球がオリンピック正式種目になれば、その試合を横浜でも！と夢が膨らみます。国内外から多くの方に観光していただけるよう、知恵を絞り、市職員も市民も一体となって、みんなで横浜をアピールしたいですね。

私も少しお手伝いさせていただいたのですが、みなとみらいでの「ピカチュウ大量発生チュウ」は今年も8月7日から開催されます。過去2回で347万人も集客し、イベントを見たいとアメリカや欧州からも横浜に来てくれたようです。ポケモンと横浜市は正式に協力協定を結びましたので、ピカチュウも横浜を公式に応援してくれています。

横浜市では、クルーズ客船や修学旅行の誘致、Wi-Fi環境の整備、多言語対応、映像やSNSを使った情報発信など様々な施策を展開しています。

観光政策で何か良いアイデアがありましたら、是非教えてください。みんなで観光都市横浜を盛り上げましょう！

横浜市議員 古川直季

古川なおきプロフィール

県立希望ヶ丘高校・明治大学 卒業/明治大学公共政策大学院 修了/横浜銀行勤務後、衆議院議員秘書
 平成7年4月 横浜市議員初当選(26才最年少) /自民党横浜市議員団所属
 平成28年 温暖化対策・環境創造・資源循環委員会/孤立を防ぐ地域づくり特別委員会副委員長
 横浜市会FCキャプテン/希望ヶ丘高校同窓会桜蔭会理事/旭区サッカー協会顧問
 旭区スポーツダンス協会顧問/旭区卓球協会顧問/旭区食品衛生協会顧問/旭区剣道連盟顧問





高速道路の逆走防止!!

先日、旭区在住のプロドライバーの方とお話ししていたときに、こんな話がありました。

「前向き！前向き！やってみよ！」

古川なおき事務所が取り組む様々な【前向きプロジェクト】をご紹介します。ご興味のある方は、是非ご参加下さい！

1



「国道 1 号線を横浜方面に向かって右折して狩場インターに入るところ。あそこさあ昼間は大丈夫なんだけど、夜は行き交う車が少なくてガラとしていて、暗くて分かりづらいから、出口側の道に入りそうな感じがするんだよ。」

え？
それはマズイ！

2

標識
ありますよね？

もちろんあるよ。でも見えづらい。というか見落としやすい？ん～何かな？

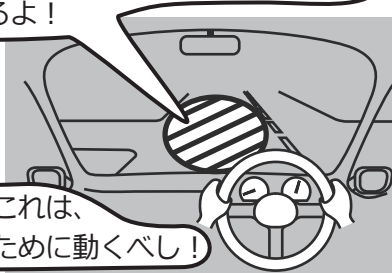


3

ドライバーの視野を考えると、必要な情報は路面に描かれているのが一番なんだよ！視野が狭くなる高齢者の方でも、路上に表示されていれば絶対目に入るよ！



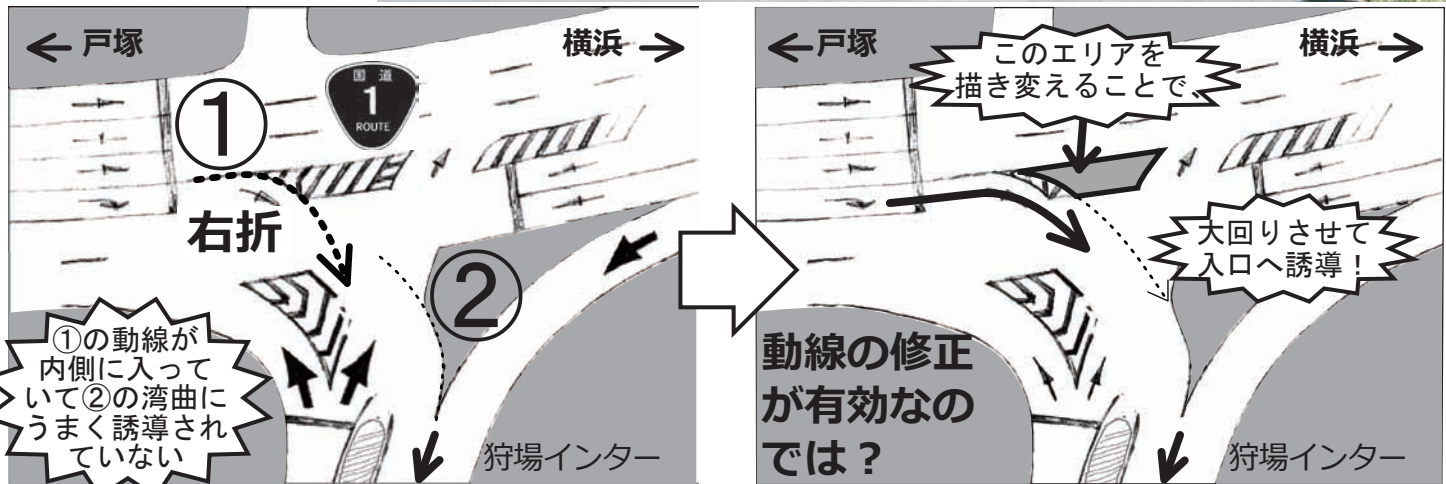
なるほど！これは、事故防止のために動くべし！



高速道路 6 社※管内での、2011-2014 年の逆走発生件数は累計で 739 件。その約半数はインターチェンジやジャンクションで発生しています。※NEXCO 東日本、NEXCO 中日本、NEXCO 西日本、JB 本四高速、首都高速道路、阪神高速道路



標識はいくつもあるのに、路面の矢印が消えかかっていたのでこれは要対応。また、よく現場を見ると動線の誘導がうまく出来ていないと思われました。



横浜市の道路管理担当である“土木事務所”に写真や図面を使いながら問い合わせると、警察や NEXCO 東日本と連絡をとりあい対応を検討して下さることになりました。そんな中、まず“横浜市”として対応可能な領域は①エリアの路面表示ということで、7月2日に修正をしていただきました。最近は路面に色をつけて、ゾーン分けすることで誘導を明確にする手法もあります。標識を分かりやすく！電飾で見やすく！路面を色付けゾーン分けで進行方向を明確に！分かりやすいことは安全につながりますので、様々な工夫で対応することが重要となります。皆様も、安全運転にお心がけ下さいますようお願いいたします。



お気軽にご連絡ください。
FAX: 045-366-9700 / TEL: 391-4000
E-Mail: jm@furukawa2002.com

みなさまのご意見をお待ちしています！

古川なおき政務調査事務所
〒241-0825 横浜市旭区中希望が丘 199-1
希望ヶ丘駅より徒歩6分

